産物
日本地理往来
上

千里發兌

日本地理達案

大坂 藤原 文彬著述

地理達案序

夫和土の廣袤の遠き彼土乃人情事物を考へ山川の高卑金玉の象を徴し八重の波濤を渉り あまつ空者て工商國乃名称なるたくもうれ 費て況や彼土の地理を詳にするに如ぶあ 大抵百業此を明にすべき造詣なるを又

四方に言ふる大昔代に先達人の事の有るを
論ずるに功多きあるを言ふはあるとも
つの暫人に國をもちて郡をもて山海乃
産物出地の實地田畑の經界ハ知る所の
名称に隨ふ事を以て他國の貨
財を買ふ所の一一ちハ系に生ず地理
を知りて此後彼出地理学ひて後正し
出る所の地理法未だ成書
簡の後乃ち出学校を建て物産人
て活学ふものに物産を知ること我
国國出ものに於ては羅列書
学校を建て學事初章乃彼正さ
乃ち学生を選ばれ免ぜとおちる人意さ
志ぬきして童蒙此熟通りを此事

実情学生を拙きを学の本
とする孔子あきつ往事を法る
王と雖乃四夷を招き十八種佐渡乃
八つ国を従属のあり百年紙
記を引き本和

備前生

芳井橋の新まを去

日本地理図集

六十余州の総称を大八
洲と雖も秋津洲を
第一とす故に秋小穂
国と申せ歟

○本朝の國名往古ハ一字ゝ書もあり或ハ三字ゝ書もあり則ち倭國津國木國泉國越國豐國火國粟國總國いづれも一字あり又駿流河國相加摸國武藏国上毛野國下毛野國丹後國但馬國大養德國凡河内國近

神武天皇以降之長

久之初都地世世國國號ハ日

倭國ハ日本ト

云ハ上古ニ倭國ハ日

本ト名ケ周ひて音

淡海國ふどいづれも三字書あり

古ハ國と称ハ後郡郷ゝ革るゝ

許乃國嶺の内 以下いづれも国字又の内の二字と畧もこゝ筆力のうき煩を除んこゝあり 菖城

大穂和河 久努遠江 盧原駿河

師長相模 知々夫武藏 須恵

馬來田上海 上伊甚武

社菊麻上總 印波下海

上下總 新治筑波茨城

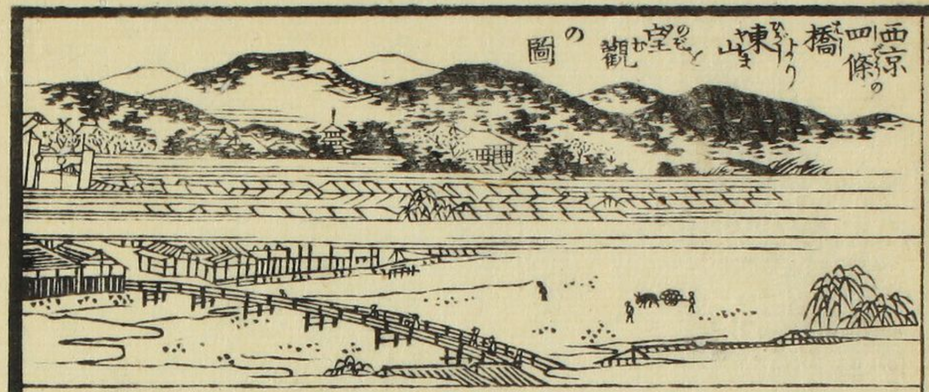
漢ヲせり古来六十八ヶ年

又藏七百と二年位

四百之年辰ヲ経て 駿

東北ハ海せて五藏八百

八十四國と定め給ふ



畿内五畿　五畿内
南を紀伊　西を西海道
北を若狭　陸奥なり
是日本中央
第一山城名の如く

仲久自幡田高国信田
以上常陸　菊多阿尺伊久染
羽浮田信夫白河石背
石城以上陸奥　須羽信濃三國
角鹿越前　江沼加賀羽咋能登
伊弥須越中　久比岐越後二
方但馬　鴨明石以上播磨　大伯上
道三野以上備前　下道加夜
以上備中　品治備後　大嶋都怒
以上周防　阿武長門　熊野紀伊　長
阿波　久味小市怒麻風速

少國多くして
植郡畿内に来續く
都なり今茲京都府と
称す府廳を山城一國に
丹波の三郡管轄し

以上伊豫　波多佐　末盌前　筑宇前　豊前　國前　比多豊後　以上末
羅　葛津以上肥前　阿蘇葦北
天州以上肥後

山城　八郡

愛宕　葛野　乙訓　紀
伊宇治　久世　綴喜
相樂

田數　八千九百六十一町

高二十三万百三十石餘

驛　京都府　山城一円　丹波三郡

大きなる殿のあるところ九
條の御所の西の方に東寺
七堂伽藍と都の第一の
方にあたる東山より嵐山
東宮の住みたる馬山

往昔山背山代開木代山
開くゝ書を都と葛野郡
宇田村の地に移を今の
平安京これなり

○土産　茶　羽二重
天鵞絨　緞子　金襴
繡　諸絹布織物　白粉
陶器　漆器　鑄物
諸巧細工物　扇子　紙
石　硯石　川芎　當飯
五穀　野菜

海を隔て大和國なる
第二の都なり
大堰川の流れ清く
澄へ仏地なる所古跡
多く畫れり

○大和　十五郡

添上・添下・平郡・山邊・宇陀・式上・式下・十市・廣瀬・葛上・葛下・高市・恩海・宇智・吉野

田數　七千〇五十五畓

高　五十万千三百六十石餘

驛　奈良　大和一四

古ハ倭・大倭・山戸・山跡・大養德と書き

奈良ハ元明天皇四十三代和銅三年より理天應

神武天皇平定以来。

四百世達都ありて。

山陵今當代に至る。

良を和銅三年より理天應

元年に至る。

大和神武帝山陵御崇敬御造營遥拝の圖

元年の間に廢を興す。

南都乃杜あり。

七堂伽藍あり。

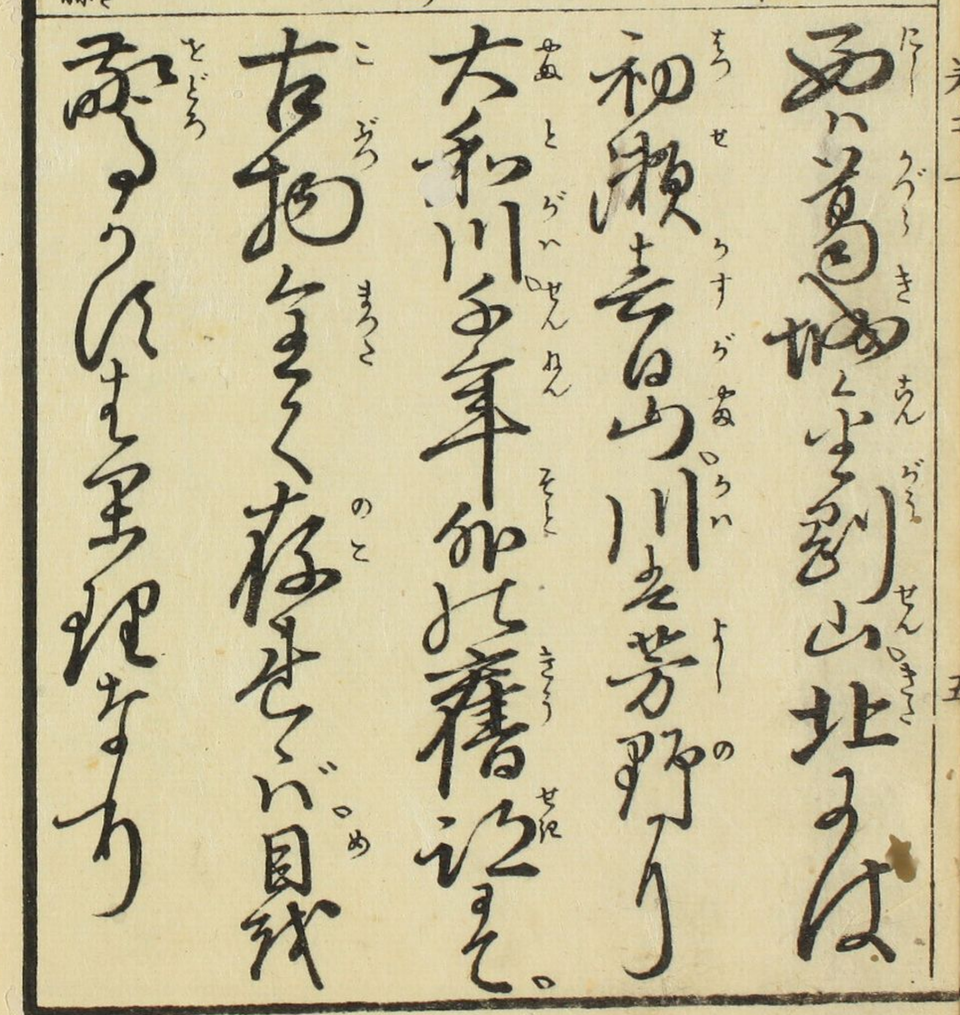
雷電すぐれ山嶽

天皇崇敬する者聖山。

平城都と号す

土産　五穀　材木
檜細工　木綿　油　漆
墨筆　帷子　繰綿
葛粉　素麺　煙草　合
羽　杉原紙　漆瀝紙
宇田紙　柿　團扇　蠶
豆　地黄　當飯　去の
ほう菓　叶　麦一

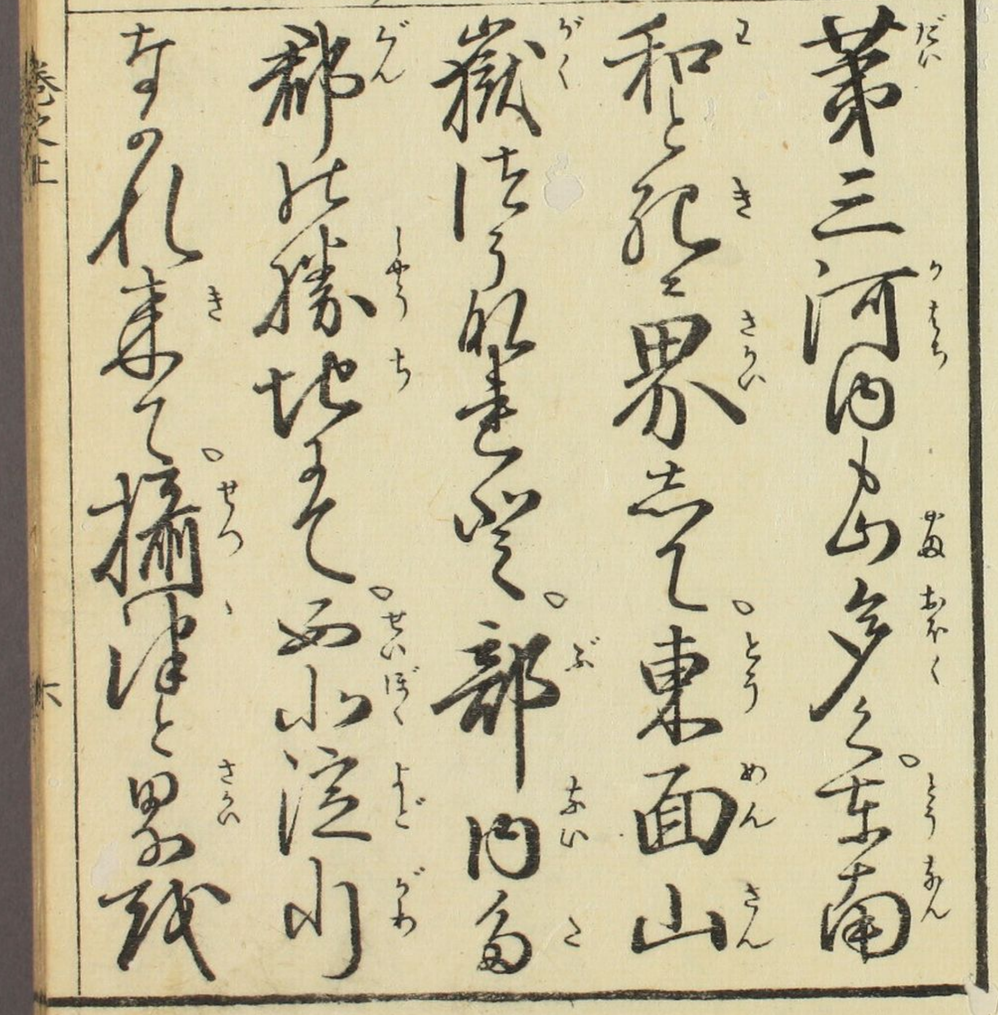
河内　十六郡
綿織　石川　古市　安宿　大縣



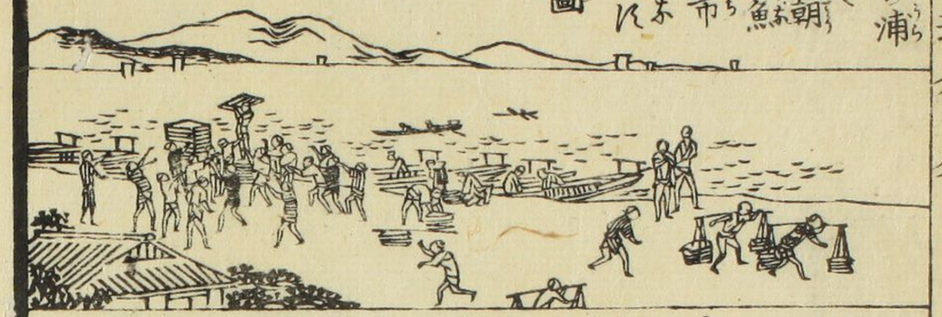
高安　河内　讃良　茨田　交野
若江　澁川　志紀　丹南　丹北
八上

田數一万九百五十七丁
高二十七万三千七百九十石
古ハ大河内まで九河内
とも書き

○土産　綿　木綿　油
金剛砂　炭　香の物
楊梅　蒲萄　于瓢
蓮根　馬子　五穀



堺の浦
毎朝鮮魚の市
とゝに
圖



名割國於中大和川流通を於て河皆貢を
てゝ方泉州堺へ赴き又
第四和泉を南に山岳
並列て少方堺を經治

烟草　茶

○和泉　四郡
大鳥和泉日根泉南
田數　四千百二十六町
高　十七万二千八百五十石
廳　堺縣　河内　和泉一四
昔ハ泉と書ハ天平宝字
元年五月河内と割て和
泉とし
○土産　打物　鉄炮
木綿　綿　小豆　烟草

あ和泉河内の兩國
を一名茅渟
第五摂津を
元て藏内の乾て某
乃四方海を渡て

真田打紐　唐鏡

○攝津　十二郡

住吉能勢東成西成嶋上豐嶋河邊武庫兎原八部有馬嶋下

田數一万六千五百三十七畓

高四十一万七千四百石

廳　大阪府　国内七郡

兵庫縣　同　五郡

昔ハ津國又浪速國ともいふ天正十一年十一月

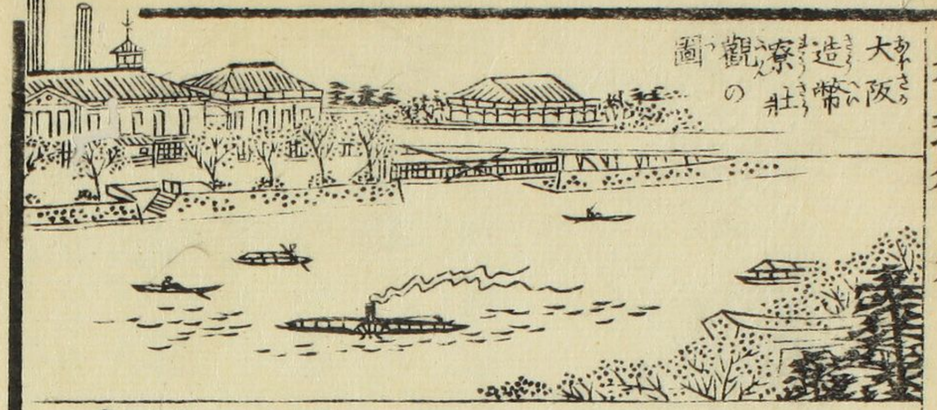
宇内の咽喉なる地にして船舶の輻湊する二の大港なり西京通ふ川薫

外国の氣通船旦暮絶間なし

豐國大明神此地ニ創業ましまし海内無双の大港なり殊ニ明治二年川崎の地ニ造幣寮と建置ハ其美觀ハ海外諸洲ニも無數ありといふ

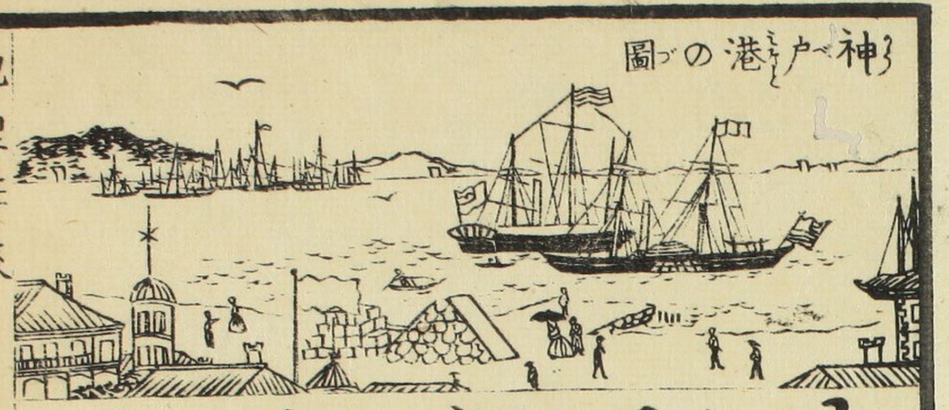
○土産　酒　阪上綠綿　池田炭　木綿　傘　瓦　胡蘿蔔　西瓜　御影石　素麺

府庫を持つて郡と内務を裁判する鎮臺附屬ハ兵備兵隊の人員ハ兵隊兵事所戸開港して生糸貿易交易も



大阪造幣寮壮観の圖

日に隆盛すること蒸汽船の如く
年々兵庫の和を以て
北海を拓て管轄す山
再び高山麗峰武庫
山神峯山松尾後ろ麓



神戸港の圖

乃ち雄壮なる形勢如名
所を程
東海道八十五國東南に
海を渡り北とハ陸地
なれハ道の魁と

東海道　十五國

往古五畿七道定まりぬ

崇神天皇八代十年遠荒の人未だ王化を慣はず因て群卿の内其當職と選て四方を遣はし天意を知らしめぬ

とて冬十月四道將軍京師を發し武淳川別東海を赴く其後

景行天皇十二代御宇日本尊

甚第一を伊賀とす。

藏山は山城。藏西の

和泉は和歌山

恰面耳也

第二乃伊勢は垂仁の帝

尊も此道より東征

なりぬ

伊賀　四郡

阿拜。山田。伊賀。名張

田數　四千五十畓

高十一万九十六石

伊勢　十三郡

桑名。員弁。朝明。三重。河曲

鈴鹿。奄藝。安濃。一志。飯高

多氣。飯野。度會

田數　一万九千。二十四丁

以来王朝絶事なき盛代

野性今世宮里迄多有。

如是い遠国事。四方の

殖産

威靈

恭く皇國神祇の

高七十一万六千四百五十石

聽　度會　伊勢志摩一四郡　紀伊一郡

三重　伊勢八郡　伊賀一四郡

内宮

垂仁天皇十一代　御宇神託ありて大和笠縫邑より度會の地に遷宮ありて則ち内宮と称す是なり

外宮

雄略天皇二十二代　御宇丹波

大神宮を祭る甚度と云ふ縁

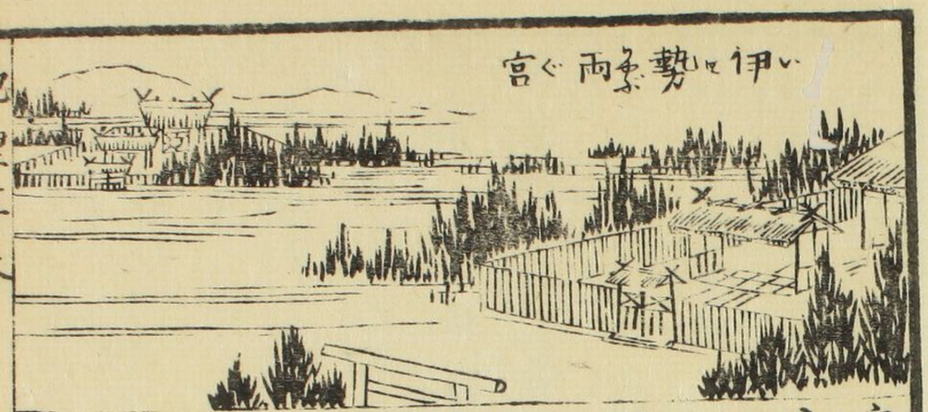
治まり伊勢ゝ都

志摩一名紀伊の年魚

新宮を熊野三重に名付

伊賀一国伊勢八郡の

伊勢両宮



度会を北麻郡を打續

西は遠ハすぐく高山なり

第三志摩ハ伊勢より東

海を南にあたる海岬を多

羽濱を通行ひ姫乃

國真名井原より當國山田の地に遷宮あり今の外宮是なり

○土産　海草　真珠　鮑　長鰒　蝦　白粉　水銀粉　木綿　綿　椎茸　串柿　黒柿　陶器　茶　材木　水銀　染物形　火縄　管笠　扇　草履　鯨

○志摩　二郡

碇泊に名付て菅の浦
第四尾張渡い熱田の少き方
乃岸を北に本宮川
涌そて西に海に出る
川の合流の分界を一尾

答志　英虞

田數　四千九百十七畝

高二万千〇七十石

昔八島津國とも云

○尾張　八郡

中島葉栗丹羽春日部愛智智多海東海西

田數　七千五百〇二十

高五十四万五千八百七十石

廳　愛智　元名古屋

○土産　陶器　真珠

戦の川と云て知多郡を
大神愛知乃郡八雲乃
四て七郡管轄す此所
鎮座の分国の里名備
北に一大隊

木綿紬　于鄕　大根
檜　椹　白木　諸材木

○三河　八郡

碧海　賀茂　額田　幡豆　宝飯
設楽　八名　渥美

田數　七千。五十四畓
高四十六万六千。八十石

廳　額田　三河国元　岡崎　尾張郡
○土産　名倉砥　雲母
紙　白魚　碁石

○遠江　十四郡

第五　三河を矢矧川を渡
り。豊川の石橋を
過ぎ。三河乃国と名附
る。渥美郡を大岬。鄙
田縣治乃管轄い。参河

濱名敷智豊田　佐麗五
長上磐田周智山名佐野
榛原城東

田數　一万三千九百六十四畓
高　三十六万九千六百石
廳　濱松　遠一川
昔ハ遠淡海といふ
土産　葛布　紫根
茁根　密柑　柑子　万
年青　鷹　鰹　飴　鰭
鰻

一國尾張郡
甚第一を遠江西北秋葉白
嶽ゆ。嶽春日白光山
を。宇治乃川の
玉乃国に曼衍ゆ大

○駿河　七郡

志田　益頭　有度　安部　廬原

富士　駿東

田數　一万九百六十町

高　二十五万石餘

廳　静岡　駿一四

昔い珠流河又駿流河と

も書き

○土産　茶　紙子　竹

細工　密柑　盆山石

木香　黄芪

駿河の国は海面の凡

一千二百丈程四時雪

あり里人雪を踏てみ

ゆる所船海之様に見え

蒙る駿河の甲斐の白嶺

○甲斐　四郡

山梨　八代　巨麻　都

留

田數　一万四千〇三町

高　三十一万石餘

廳　山梨　甲一四

昔々歌斐とも書き

○土産　細紙　漆

蝋　小梅　搗栗　姫胡

桃　柳　駒

○伊豆　四郡

三國ヲ過て。諸峯高山ヲ右の案南より豆遠の山ヲ越て右ヲ海ヲ左ヲ海ヲ。海灣廣ヲ中ヲ。三保の松原絶景ヲ富

君沢　田方　那賀　賀茂

田數　二千八百十四畓

高　八万四千百六十石

往古ハ伊豆島ともいふ南下田の港より卯辰十六里ホ大嶋あり島中六郷あり此外利島新島二々式根嶋神津嶋三々三宅嶋五々御倉嶋これを伊豆の七島といふ御倉島より

方ハ急流矢のごとし。

駿河　一名富士嶽

富士ハ静岡の郡廳ヲ駿

第八甲斐ヲ山間の一小都

富士川ハ上源支流國

南六十里ゟ八丈島あり
て七郷あり其八重の湊
より南百八十里ゟ無人
島一名小笠原島あり

○土産　酒　修禅寺紙
石　良薑　椎茸　打
鮑　八丈島細　縮砂
箱根竹

○相模　九郡
三浦鎌倉高座足柄上
足柄下大住愛甲陶綾

西海道通て西の方地続
風土記の岳。富士嶽
七面山。赤石山。引連り此
むつい峠。箱根山。箱根岳
天目山。富士山。多き中央にあり。

津久井
田數一万。畑三十六町
高二十八万卒七百二十石
廳　足柄　六郡原　相模　豆　一四郡
昔ハ相加摸或ハ相武と
も書く往古ハ足柄の山
道より〻ゟ延層二十一
年箱根ゟ道と開く今の
東海道是あり

○土産　紅花　庭石
鯉魚　大根　海蝦　江

山梨縣　甲斐国
猪　鹿　猿
第九番目に常ゝ居る。伊
豆の猪ゟ河のとお摸ゟ丸薬
出る。岬ゟ刈。北ハ箱根

乃険を負ひ中を天塹乃
諸山あまた層巒多く
七湯の外を火山流れ利も
小田原温泉箱根ふ
あまたの名湯を除よ熱

海苔　海雀　鰤　大根　柴
胡

○武藏　二十二郡

荏原豊島足立葛飾橘樹
久良岐都筑多摩埼玉横
見八間秩父男衾大里榛
澤賀美幡羅比企新座那
賀児玉高麗

田數　五万千五百二十一畓
高百二十八万千四百三十石
古ハ武刺無邪志ゝ武

海苔　海雀　鰤　大根　柴
胡

第十相模を南海西ハ小
田原橋山を境ひ丹
澤山の山より発する
水酒匂と馬入との二乃川

藏志とも書は當國も
と東山道の部なりし
沿
光仁天皇四十九代寶亀二年
十月改て東海道に屬
を
東京
明治元戊辰十月十三日
鳳輦着御あらせられ
萬機
御親裁の皇居たり依

海を出づ箱根温泉
七湯ありて鎌倉古蹟の府
沿て山海名勝數多し
足柄關を伊豆一國相
摸六郡管轄者

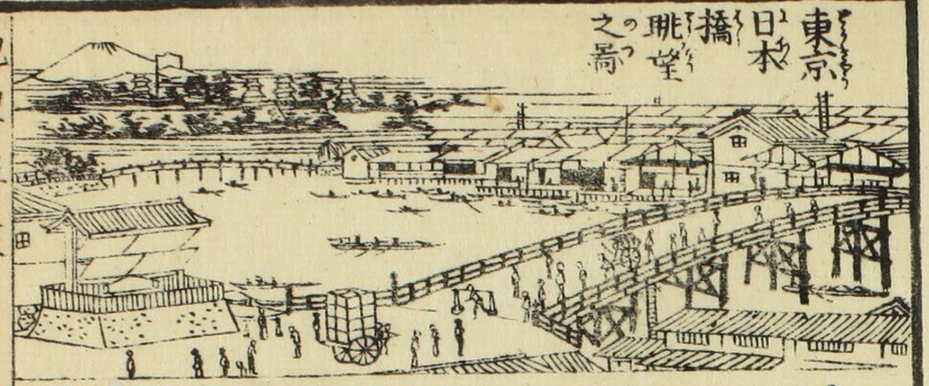
て東京と称せ
大政九省諸寮學
校其外府内のこと
を世人のよく知る
ところなれば爰
に畧す

廳　東京府　武四郡
神奈川　円四郡　相三郡
埼玉　元岩ツキ　武三郡
入間　元川越　円十三郡

○土産　錦画　草雙紙

第十一乃武蔵こゝを東京府
と云四里の方廛屋列る大
都會まち所類多き都京
を住人花屋麻合車と
なす穀類も運るなり

幕府より揮毫を西武
蒙を啓く此有用の限るべ
地を下総に接して平沙
渺々茫々として坂東を貫く川
高麗下総乃界を甘糟川



北東に流れ中河
利根川と義又角田川とも流
出て甲斐より七里丹波川
来る小郷矢口出ッ西に秩父
北に高山を埋て嶽三峰武

甜瓜　草薢　葱白
石灰　素麪　木綿編
紫染　品川苔　鬢　諸
巧小細工物　小間物

○安房　四郡

平　安房　朝夷　長狹

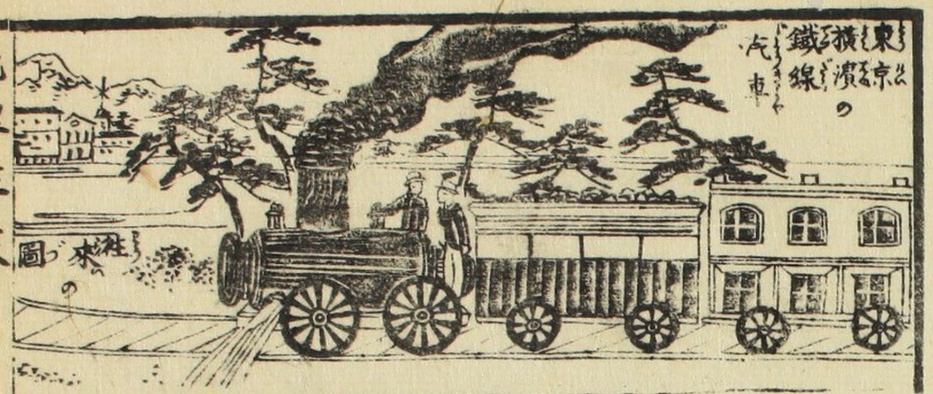
田數　四千三百六十二町

高　九万五千七百四十石

昔ハ淡州ニ書セ

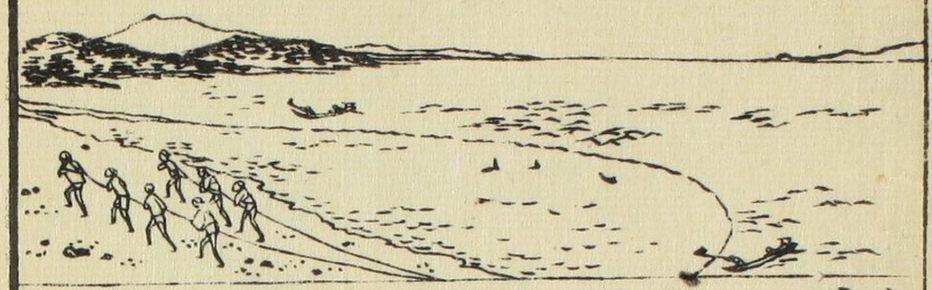
○土産　木綿　苔　浪
子貝　紋苔　眼黒鰹

四山南ニ小佛言尾山ヲ
横濱ヲ北ニ神奈川乃東ニ
ヲ流ル海濱ヲ要ニ高
社乃一大郡ニ當テ大要ヲ
杵ヲ為ス（畫）橋綱ヲ天ニ



ヘ俗ニ入ル地ヲ有。
東京府ハ國内ヲ新神奈
川縣ヲ和泉三郡相二郡入
関縣ハ武蔵十三郡埼玉郡
ヲ加ヘ三郡合セ府

東金大網の之づ圖



総合して四藩なり。諸侯
白里に於て都ゆへ百里に接係
す。藩ハその数多年を経て
自ら強盛に属して兵備甚多く十大隊

○上總　九郡

市原望陀周淮天羽夷隅
長柄山辺武射埴生

田數　二万二千三百六十六丁
高　四十二万五千八十石
廳　木更津　上総一円
往古ハ總の國といふ后
ハ上総下総の両国に分
つ

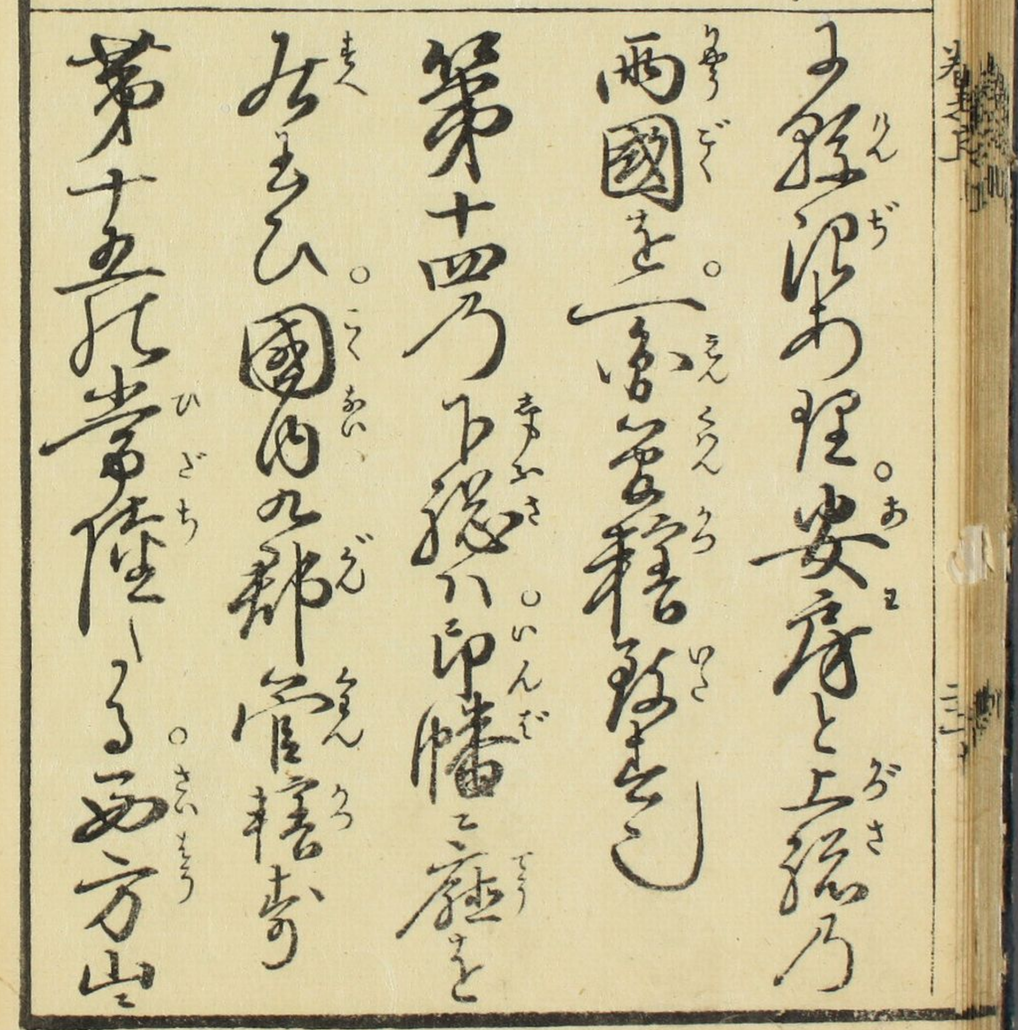
○土産　紅花　石鯛
鮑　蛤

第十二号安房国和上總
国と地を隣南方安房小
川上総を一つに合せて
廣大なる長の岬なり
第十三号上総国木更津

○下總　十二郡
結城。猿嶋。葛飾。相馬。
岡田。豐田。千葉。埴生
印幡。香取。迎瑳。海上

田數三万二千〇三十八丁
高六十八万千六十石余
廳　印幡縣　佐倉
○土産　苔。油。栗。
牛房。干温飩

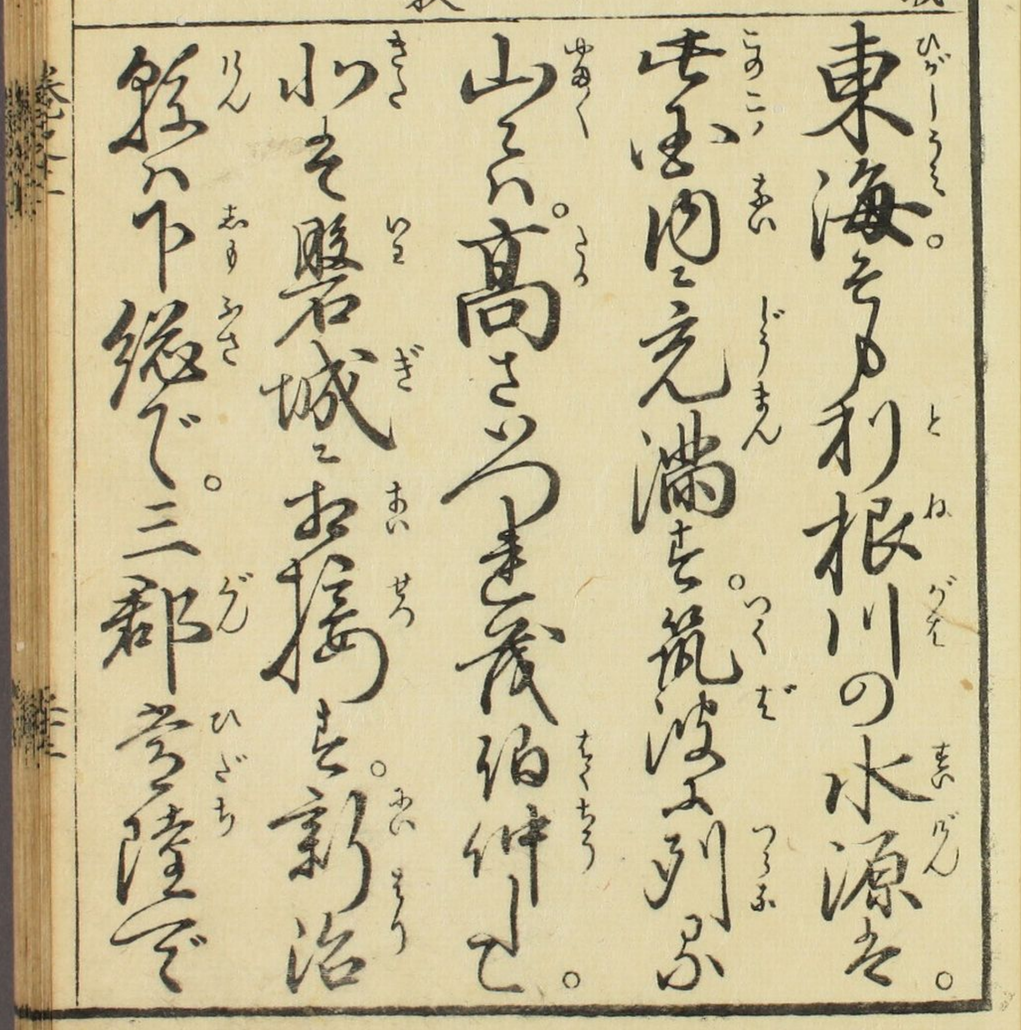
○常陸　十一郡
新治。茨波。河内。行方。信太



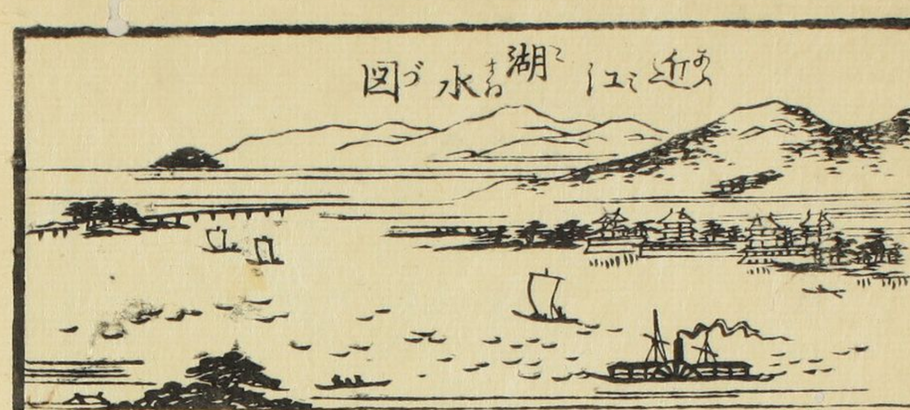
鹿島。多賀。久慈。那珂。茨城
真壁

田數　四万二千〇三十八町
高　百万五千七百石余
廳　新治　元土浦　常六郡　下廿三郡
茨城　元水戸　常五郡
○土産　大方紙　小板
原　植魚　鯉

東海道　十三國
○近江　十二郡



近江湖水図



六郡なり茨城郡常陸
で五郡管轄し
東山道は十三國本邦四地
乃山道にて嶮峻險阻その
来たれる海多し

滋賀栗太野洲甲賀蒲生
神崎愛知犬上阪田浅井
伊香高島

畿三万三千四百五十丁
高八十五万三千百石
廳　滋賀　元大津　同田六郡
犬上　日彦根　日六郡

古へ淡海まゝ近淡海と
もいふ國中琵琶湖あり
往昔東海道なる湖あり

甚だ近江にて四方山國
中央に琵琶湖あり
渺茫たる西に比良あり比
叡山東に美濃に接す中も
たかき伊吹山なり川は悉く

て山城平安京ハ近きと
近淡海遠きと遠淡海
といふ二おうゝ湖ハよ
かて国名とせり

土産　茶　蠶糸　絹
麻布　真綿　蚊帳　木
綿縞　同縮　水晶　砥
石　硯石　石灰　辛灰
磁器　艾　燈心　葭
簾　藤笠　同行李　菅

皆淡海の産にて綱ハ少れ乃
七帆入孤志賀ゝ　天智
天皇ハ都の昔恵ハまゝ風
景ハ限ゝ淡賀と大上ハ
勢ゝ有仁まゝ者内谷治

笠　外　鍋釜　椀　畳
表　田座　鳥子紙　針
十露盤　江魚　大根
野菜　山艸　蛇骨
蟬脱　藥艸

○美濃　二十一郡

多藝石津不破安八池田
大野本巣席田厚見各務
山縣武儀郡上加茂可兒
土岐恵那方縣海西羽栗

ハ六郡ハ信ハ美濃ゝ
續て第二の美濃ゝ知。
西海ハ乃ハ地ゝ本曽川
ハ源ハ西流を分て國ハ
元ハ西ハ山麓ハ杉桧山

中島

田數　一万五千畨。畨

高七十三万石余

廳　岐阜　一圓

往古ハ三野と書き

○土産　厚紙　中折紙

尺長紙　扇地紙　絹

温石　磁器　小刀　剃

刀　庖丁　鉤柿　枝柿

江魚　鳥類　野菜

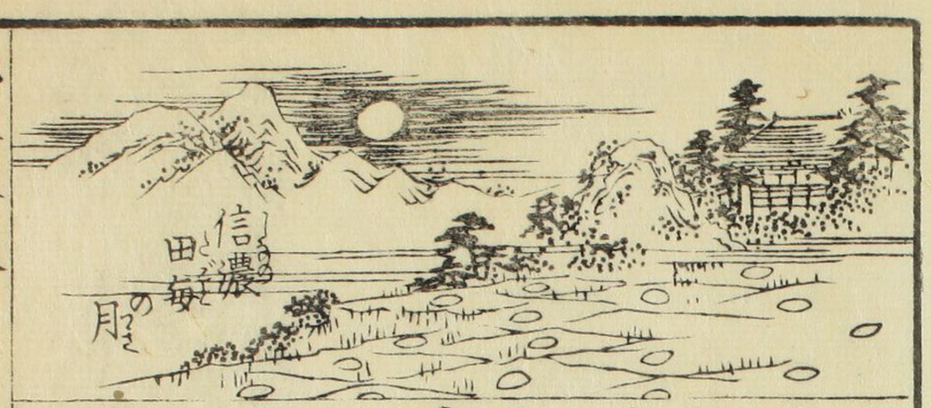
北ハ山を相連て尾張の国

揚れり。岐阜は殖産一國

の新をきく廳なり

第三番　飛彈を左に方信濃

に接て高山國にて家高き



土地なまり

第四信濃高山國にて四方

境を十国に接す高山嶽數

知れず。名実凡峰崢嶸たり

中嶽　駒ヶ嶽　諏訪山

○飛彈　三郡
大野　吉城　益田
田數　六千六百卒六丁
高　五万七千石
むうしゝい　斐陀　ともも
書も
○土産　綿　鹽硝　銀
銅　椹　榉　紬　楊
栗　櫟細工　塗物
○信濃　十郡

八嶽和田嶽　大倉高原白
峯山　浅間火噴出戸隠
妙高雪ある山乃畑山名
なつ九出て西むゝ木曾
河て南ゝ多る三紀川ゝ

筑摩伊那諏訪安曇埴科
高井水内佐久更科小縣
田數　二万九百九十六畓
高　七十六万八千石
廳　筑摩　元松本信　郡信　飛一四
長野　信　六郡
昔ハ科野　まゝ　信乃と
も書
土産　生糸　絹　麻
衣　小人参　小枚原

落ゝ三信濃川三流と流ゝ
流ゝ國内ゝ集ル大道も
多ゝ桟道絶ゝ所ゝ
險ゝ所ゝ多き筑摩郡ゝ
飛彈一郡信濃四郡を

木賊　椹木　煙草　小
梅　串柿　干蕨　蕎麥
杏仁　苟藥

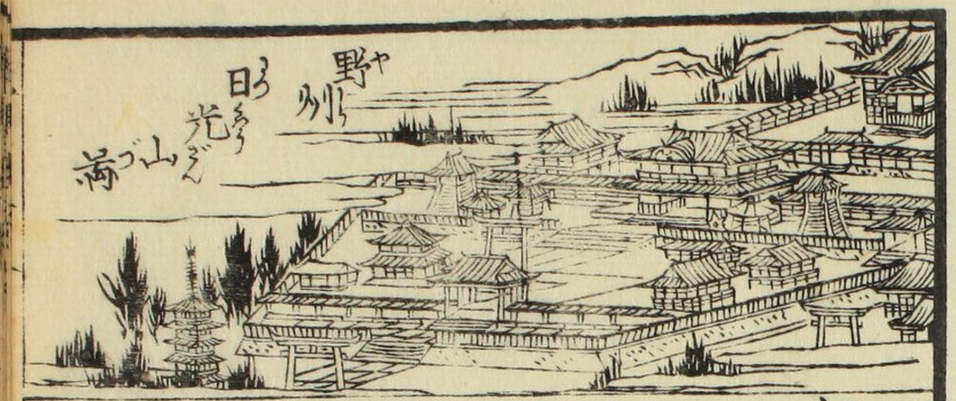
○上野　十四郡

利根　吾妻　勢多　碓氷　那波
甘楽　佐位　片岡　多胡　緑野
群馬　邑樂　新田　山田

田數　二万八千五百三十四丁
高六十三万七千三百三十石

○廳　群馬　元高崎　上野十一郡

を治めるは長野の縣に信
州の郡之内碓氷上田こ
結屋の管内を常備の
兵を一小隊
第五上野是義山は高山



多勢利根川の源元水源
小菅北は榛名南は
妙義二山高峻り碓
氷嶽山三は嶺と名
付たる山を九三所あり

往古ハ毛野の國と書き即ち上毛野下毛野國とぞ唱へ

土産　蠶糸　絹　白苧　漆　盆山石

下野　九郡

足利　築田　寒川　安蘇　都賀　芳賀　塩谷　那須　河内

田数　二万七千四百六十四

高　七十八万石

廳　栃木　上ノ三郡　下ノ五郡

[illegible]山脈ハ二ツ有リ中央ニ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]と岩代との界

東ニ有る[illegible]と岩代と下

[illegible]西ハ上野と接す信濃

[illegible]ハ[illegible]程馬の繁

宇都宮　元下ノ四郡

土産　銅　日光苔　大方紙　漆　絹　牛房　笠　扇　團扇　椀折敷

磐城　十四郡

宇多　亘理　伊具　苅田　白河　行方　標葉　猫葉　田村　磐城　石川　菊多　白川　磐前

高　六十六万七千石

廳　磐前　元　男十郡

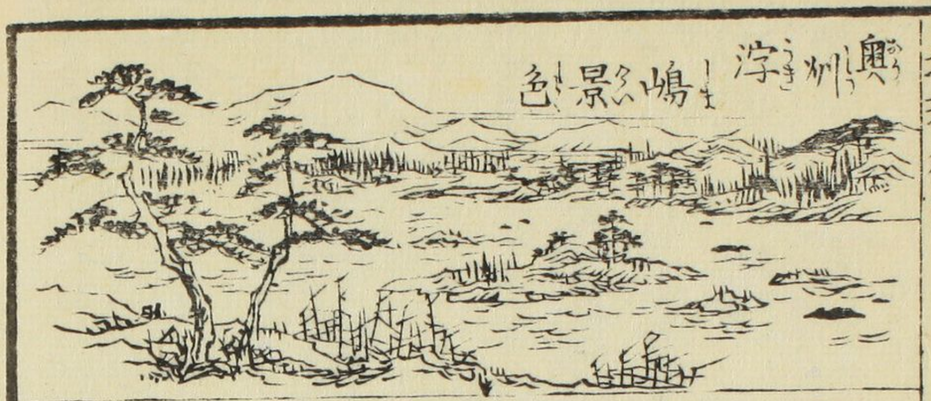
[illegible]の[illegible]十一郡を管轄す

第六下野の南ハ上野に接し山

多[illegible]乾に當りて日光山黒

[illegible]原を演て山を繞り

岐[illegible]ハ國の諸水を合



一道を二の派を分ち南
行せるハ上総北市川に入まく
別に陸中河に来流を栃木
北豫を五郡と上野
三郡を程宇郡宮城郡

○岩代　九郡
信夫安達安積岩瀬伊達
會津耶麻大沼河沼
高七十五万五千七百石余

廳　若松　元會津　田内　四郡
福島　元福島　岩代　一郡　五郡

○陸前　十四郡
牡鹿桃生遠田志多賀義
黒川宮城名取柴田本吉
登米栗原玉造気仙
高六十九万八千石

第七番い曙抽出函
をつるく河武隈川に添
陸奥岩代と界中ほの方
南を高く聖高嶽。

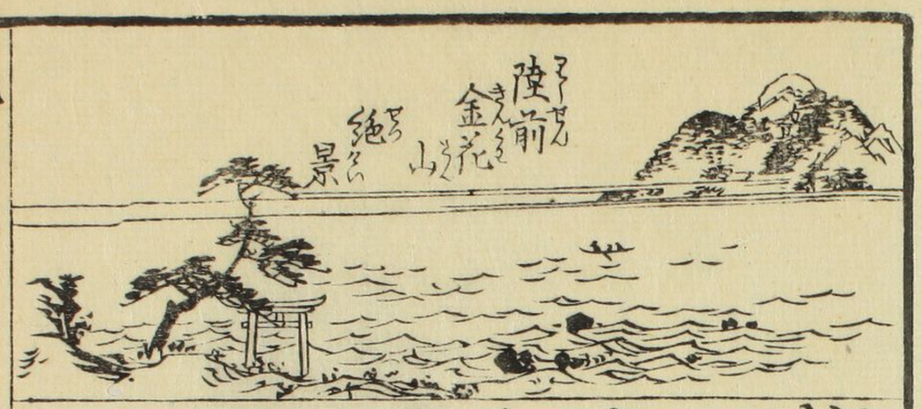
○陸中　十郡
宮城　元仙台　陸前九郡　イワキ四郡
膽沢　江刺　磐井　閉伊　和賀
稗貫　紫波　岩手　九戸　鹿角
高四十二万三千石余

聽　岩手　元盛岡　陸中六郡
水沢　元膽沢　リクゼン五郡　リクチウ三郡

○陸奥　四郡
津軽　北　三戸　二戸
高三十八万四千石余

聽　青森　元弘前　松前　一四

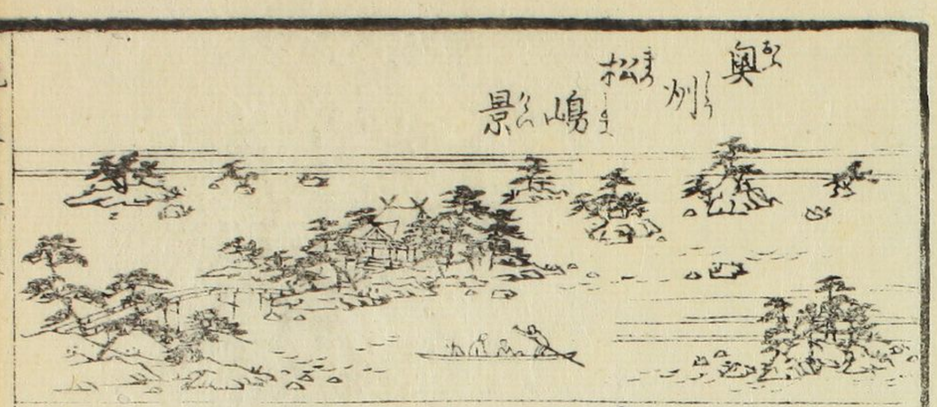
磐城で千都を管轄し
第八岩代山はみて高山多
きその中に大能沼引あり
山伏夫山に於名産の孔雀
津軽は国内に於著く好きて



越後八福島然に磐城一郡
岩代は郡を治めるに多松
前そ其代乃内で四郡成
公亜接者
第九にあたる陸奥にて

磐城岩代陸前陸中陸奥
此五國往古い道口道奥
道尻とも　いふ後ハ陸奥
と定む養老二年陸奥の
内六郡を割て石城国を
置き又五郡を割て石背
国と置く后ハ両国を停
て陸奥一国と為も其国
界さる最も廣域ゆ〜て
僻遠なるゆ一ハ古ハ動
もすれば

全國山岳平地河
嶽そいとこ多し南北方ハ阿武
隈川奥州岩代分界東ハ
海陸廣濶なる山を
海中に猶立れて松島を



大嶋高葉百丈ばかりも
高松枝を張り根を京摩
ゝを巻まとい生ぜり本邦三
景乃第一と名賞し
来を牡鹿郡生ず二新ハ是ぞ

王化ふ能き民を苦しむる徒あり依之養老二年始て按察使を置き陸羽両国を監察せしむ

鎮守府い宮城郡多賀城あて即ち仙臺城こゝをその旧趾とり天平宝字のころ恵美朝獦等桃生郡の辺まで新たにかゝて鎮守府を造営しゝ蝦夷の

石押名取河の上流に二を隔る大河あり理曰名取郡

多賀城

九郡水澤の名陸奥郡

陸中三郡を管轄名巻

押とせしもこゝ其頃石碑を城門の前ふ建て去蝦夷国界一百二十里と記して今の道法ふて二十里ありいまの桃生郡の辺より南を日本の地とし北を夷地と定めらを国司と共ふ民を治めしむ壺の石碑名ふ高し

宮城郡

第十陸中

清流函

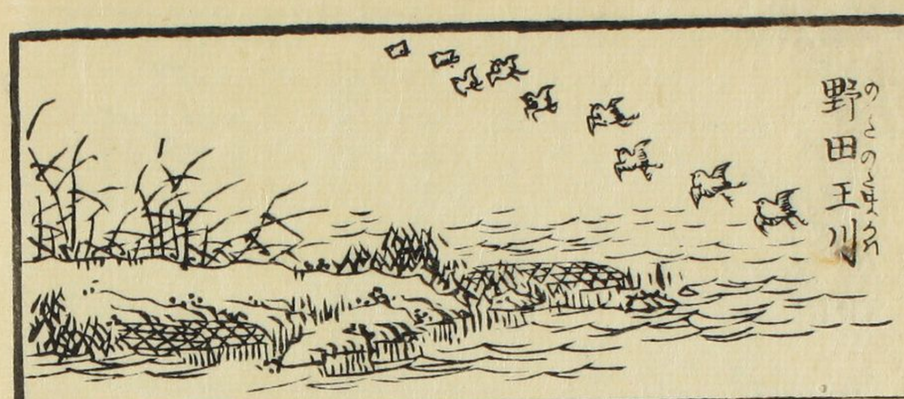
連嶂波濤

北上川

其数猶ほ流れ

河内郡

累累

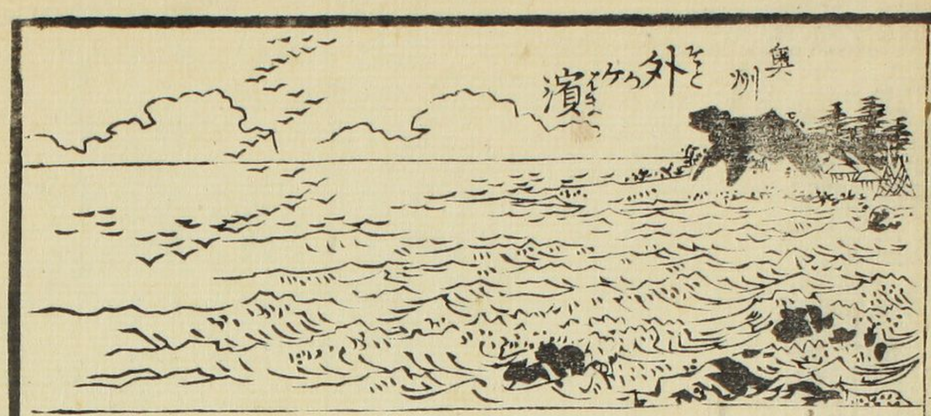


あれ。家と高き岩鶴山。
北上川の源より出。水あるたび
若角部樓蔓陸奥。
突出て無い角に似り岩手
乃紀之を出羽之を稱す。

○土産　金　沙金　水精　紬　紙布　奉書紙　琥珀　薫陸　丹土　舎利石　埋木灰　漆　蠟　精　大蕪　金海苔　壮蛎　鰍鹽引　鷹　熊皮　尾駮駒　馬尾　信夫摺絹　椀

○羽前　四郡　村上置賜　家上田川

第十一　陸奥　是も和
玉中東山ナリ。其数多
す名山高くそびえて雲
入る津軽富士是
子輪川津軽山水二の



大神中間海湾にて廣く
海外に出て世數多の
岬を小船乃岬を三馬屋
海外の濱を通る小
水雲にて海辺を

高八十万四千五百七十石

廳　山形　国内三郡
置賜　元米沢　同一郡
酒田　同一郡　羽右一郡

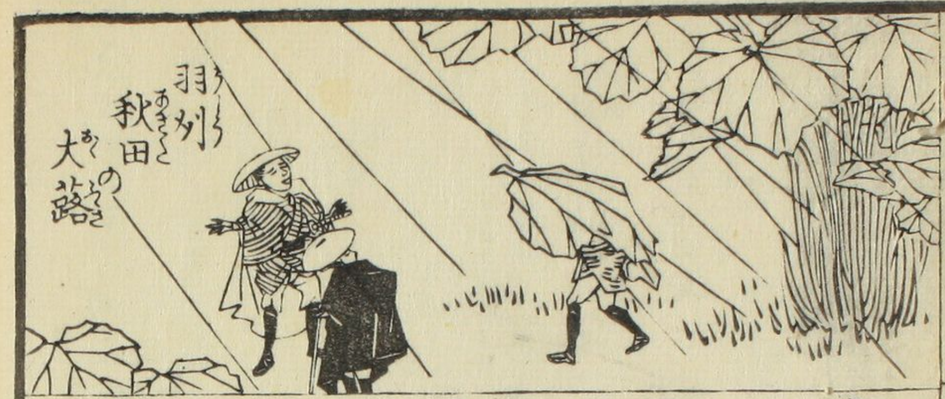
○羽後　八郡
鮑海平鹿雄勝仙北由利
川辺秋田山本

高六十五万六百石

廳　秋田　羽右七郡　陸中一郡

羽前羽後の二國へ

望見する青森能へ陸奥
一名松前第一番猪を試
と雲ゆく漢者名管手程
岩間乃長を四小藩
第十一弦明糸長小巡羽



後の陸湯沢雲累峰谷つ
塩川の河源を出羽に出る四
方に散湯を結を結て
荷坂田河を山多き其
中ふ月山湯殿山を

出羽国あり和銅五年越
后を割て出羽と置く同
年十月陸奥のうち二郡
を分て出羽ふ併せ今ま
た是をわりて前後の
両国とせ
秋田城
齊明天皇四年越後国
司阿部比良夫蝦夷を討
て齶田秋田今の淳代野代津

三重義有名物を毛湯名
三郡庭山形縣を羽前
之神参詣を
第十三羽後國雲州を
高山にて玄平嘉吉弱ケ年。

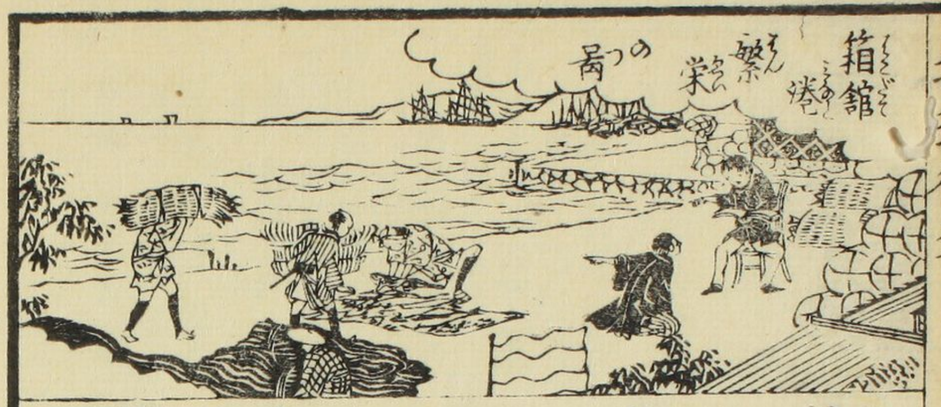
軽と平治し各郡領と置く而してのち秋田城と置兵士と備へ陸羽両国の非常を守らしむ后延暦二十三年秋田城と停て秋田郡と改めらる

○土産　銀　錫　鉛　温石　硫黄　紅花　漆　油紙　青苧　紫根　蠟　干蕨　狗脊草　臭槙　昆布　串鮑　煎海鼠　鰰　麻皮　馬

北海道ハ旧称蝦夷といふ其彊域曠漠にして僻遠なり因之明治二年己巳の秋八月大ひに開拓の基ひを起し改て北海道と称し国を十一国に定めらる

西は高海山戸崎邪代の二方川郡田面を流れ出て西に大の湖を為す。玉沼細井映を以て。地上北面連接を。其

湾小船沢。秋田の郡と七郡とまく。陸中で一郡是北筆精坂田乃郡ハ田舟前毋後。一郡北方廉外利



北海道八十一國四方海をへて
其地廣大にして陸路海路
七日を経て
先第一渡島国に入奥津
磯小郡の正北に当る所

渡島国の南岬松前より陸
奥津軽郡北泊より海路
北方九里ゆくて三馬
屋より十一里青森
り三十二里箱館へ十六
里ゆくて其国九四十三
度より五十一度に係て
大寒地なり大概南北本
邦道三百里東西百里い
うの国なり

三面海に臨む小さき地にて
二ケ國と異なる要害
ゆえ。佐々山茅宇部郡の
田老蒲沼荒瀬嶽小沼岳
鶴ケ茅沼の山嶺よい

渡島　七郡

亀田茅部上磯福嶋津軽
檜山爾志

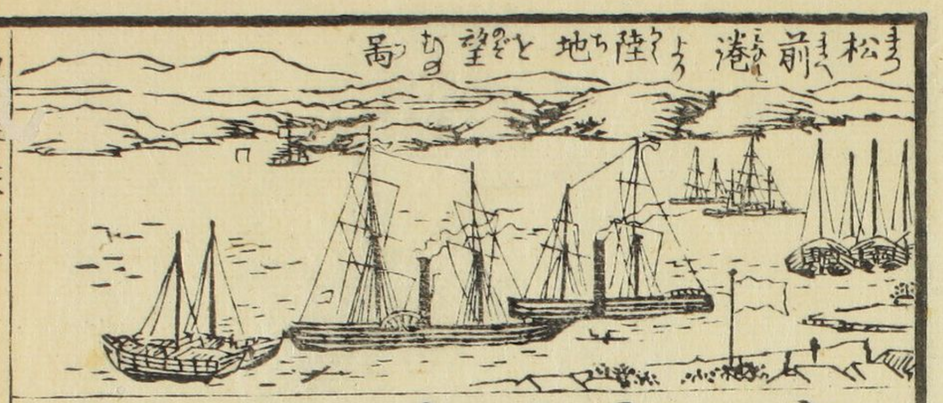
高

国内輻湊の地ハ松前江差殊ニ箱館ハ五間港の一ツにして貿易盛大の地あり

後志　十七郡

久遠奥尻太櫓瀬棚島牧

西浦郡ハ南ハ古郡あり。
北ハ旧厩村の沒和や
恵歳山。ハ北ハ古丹押山。
南ハ沙貢崎ハ西
北方一嶋ハ古丹と連り



湾を四ツ。印亀田茅部港。
函館湾の一名金湾也
都て平地ハ地の形
を極めること。有川也所ハ
ありて此方大川

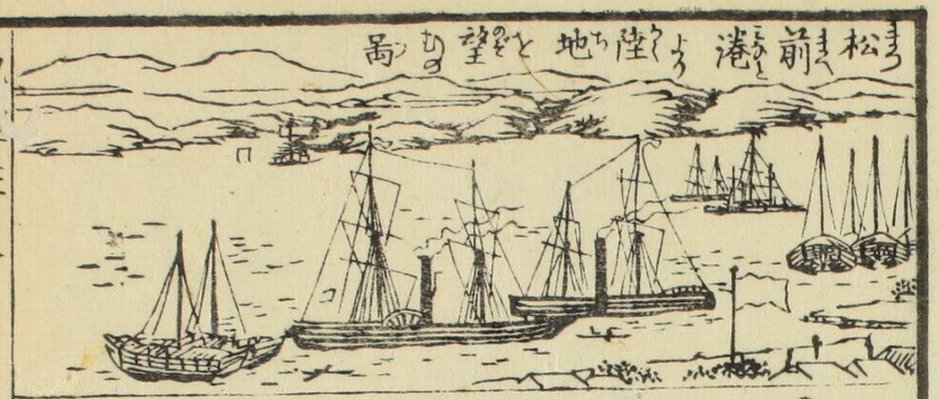
壽都。歌棄。磯屋。岩内。
古宇。積丹。美国。古平。
余市。恩路。高嶋。小樽
高

聽

○石狩國　九郡

石狩。札幌。夕張。樺戸。
空知。雨竜。上川。厚田。
濱益
高

嶽。野付。湾の北方。葛岳。北
東南八矢廻岬。初田湾の
宮北。歌。吉岡。白糠。松前
灣。西南の端なる程ケ崎
の北方花崎。西廻



灣を廻り。印象田新港。
南島の一名金雪。吉島通
都て平坦なる地の新開
を極めること。有川出所了
ありて。北の方大川

壽都。歌棄。磯屋。岩内。
古宇。積丹。美国。古平。
余市。恩路。高嶋。小樽

高

廳

○石狩國　九郡

石狩。札幌。夕張。樺戸。
空知。雨竜。上川。厚田。
濱益

高

嶽野の海の北の方に葛岳。その北
の南八矢廻岳。幌内の海の北
宮比嶽。吉岡白糸松前
灌。昆布の端を程々岳
の如北方花岳。西の廻

廳

○天塩　六郡

増毛。留萌。苫前。天塩
中川。上川。

高

廳

○北見　八郡

宗谷。利尻。禮文。枝幸。
紋別。常呂。網走。斜利。

高

其北海の所小樹子。西方
海中六ツ小二海。其海に小島
多高山。又山中いろ和嶽。
七ツ八ツ嶽。夫嶽。南西嶽と
比利海岳。佐々山。元山。上佐

北村切石新地長江郷
乃みなゝ職立ハ小さ家奴
流の川口熊石丸山中歌
嶽是海志とも累り
其第二ハ海志國ゆ小満

廳
○膽振　八郡
山越蛟田。有城室蘭
縄別。皇老勇拂千歳

高
廳
○日高　七郡
沙流新冠。静内。三石。
浦河様似縄泉。

高

て東南ハ都ゆ膽振と山
界。彼を陽て此ハ陰。小ゆ
樹徳ハ。ゆ樹見海直
直嶽。漢中餘市古平
と。美ゆ切ハ此ハ西の手。稜丹

廳
十勝　七郡
廣尾。當縁。上川。中川。
河東。河西。十勝
高
廳
○釧路　七郡
白糠。足寄。釧路。阿寒。
綱尻。川上。厚岸
高

来流北下。山水を西の
陸河東。吉尻。海棟田嶽
岩内湾。磯山。東南歌
藻琴。西當て尾
平野。島牧の西島。

廳
○根室　五郡
花咲。根室。野付。標津
芽梨。
高
廳
○千嶋　五郡
國後。択捉。振別。紗那。
蘂取。
高

昆布南浦。松前。檜山。田久
遠。別海湾。仙海。
北海。西海。中奥。尾湾。
印奥。尾郡。芽梨
第三。岩内。石狩。西地

廳

○北海道土産品
金銀洞
多くとつどる從
来の土人これを堀
夷とちがひ空く
捨置のみ也
砂金
此砂金河水に流れ

蝦夷地の大域にして西邊海岸
多くは石狩川を少海道
三大河の第一石狩源奥北
諸海岸城を立て國
名命名して西邊の者

北海金銀を
堀出の図

四部に分て東西海岸渡
仙臺山形田こそ境ぞ
より北を河内岩原田演
蝦夷地の黄金山ぞ北を汁取
蝦夷地より東南に

出るのこなごゝび砂
金のなる地い十里
二十里も土地一面に
生ずるゆゑ又所ふ
うても海底よう
わ上ると買くゝう
海濱四五十里ほど
一帯の金色となゝ
ゝと云つゝ是すら
捨置のこゝあり

[illegible]山幽谷数[illegible]仏[illegible]石
[illegible]岳や夕張夕示。[illegible]明の
間[illegible]界。[illegible]て赴き札幌
嶽是[illegible]海[illegible]と北[illegible]
第四天塩乃[illegible]形ハ。[illegible]の

良材ゝゝ
檜葉　蝦夷松こ
れい檜ふ[illegible]る良
材なり當世障子
曲物白木臺などふ
作るい此木なり
五葉松　桂　栃　椽
黄柏　艸花
春菊白花　百合黒花
虎杖太サ廻り六七寸
高サ一丈五六尺

[illegible]て真間[illegible]を石狩國
西蝦の郡押まて。恰も大
平[illegible]橋。三方山を西ハ海。
北部を天塩の大河を隔
らゞ色を國を[illegible]。南北

その別物甚小よ。幌浪まで
留萌。高さ幌尻嶽牛
尾茅前相幌より。小さ
天塩の川口。廣さ
茅根原。天塩北川を上

数冬〻莖廻り六七寸
葉大サ一丈余
山獸
羆　熊
緋熊　赤き皮猩々緋の如き疾く雷光の如
水獸
獺虎　海狗　海獺
海豹
鳥類多し就中
鶴　真羽　鷹　雛
雕雉あり此ゆふ

海辺三ヶ所の第二所を
まさきーを屯斗登。是
より東南に尾尻茅ヶ崎
本国。小見國との山界。
蝦夷嶽。それより南に

多く箭の羽を出す
絶品とす

海魚

鮭魚　鰊魚　同子

これ本邦數の子とす
此三品産出すること
他邦に比類なくて
影し

鯨魚。海鼠。蛇臭
大鱧魚　其大なるもの
浮び出る時

其脊の廣きこと六七十
丈のものなりとす

昆布　キヤボウ　漢名不詳

藻品

イケマ　ユブリコ

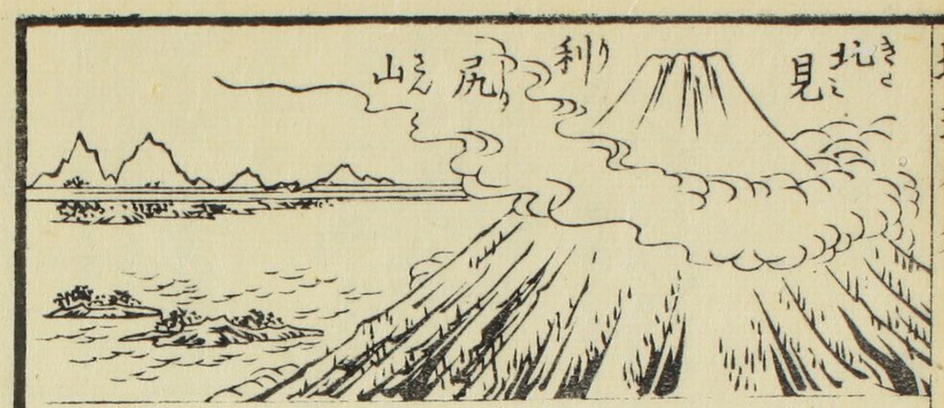
附子。黄精。黄連。
人参。黄柏

附子は毒箭に用ひ
る其法　附子
蕃椒足高蜘の三味
を搗く泥とし火に
煉くべし

此外産物數多あり

界とす。又北をて布国。
皆石狩と名界せり。西海
中に三島あり
第一の国を小見と云。小海
拾る大州なり。南島なる峰

第二峰より西北の端を掘
戸と。界祝名額茶花。湯
二島あり風俗文。海乃塩
幌泊を廻り海船多。
狩拂を幌別也。幌内



渤海谷は東にあるを大沼湖。幌岩谷は呂川の口。必川源を見て入て猿ヶ別と名づく。野付捕虜を野付崎。薩琴を琴湖。多布施を

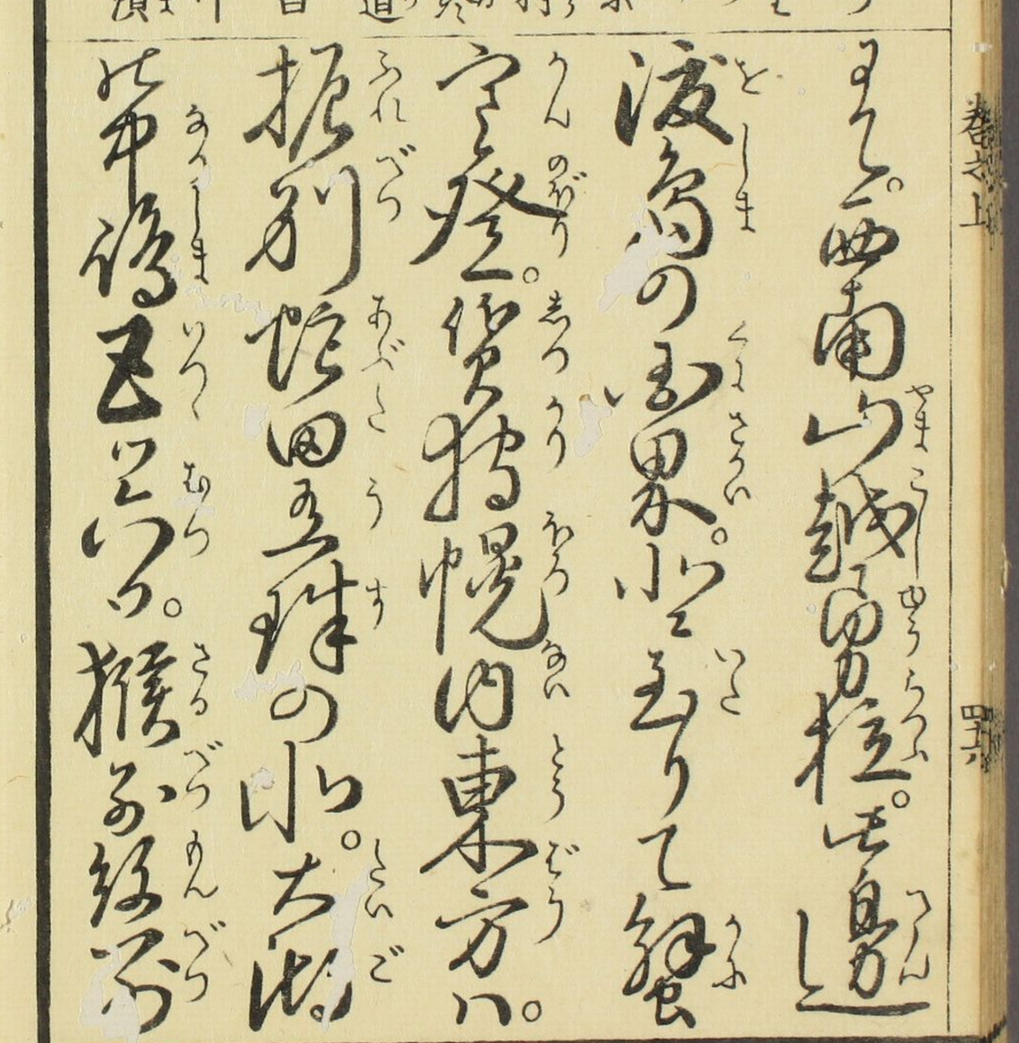
屋久島も大碁戍

夫蝦夷とは往古陸羽両国をいふ蝦夷とは既に前抜ふ須守府の碑に蝦夷国界一百二十里とし〳〵今道二十里〳〵挑生郡の以南を日本〳〵以

湯梅尾岱や初岩の岬の鼻を知床又は長崎陽子の国とも書

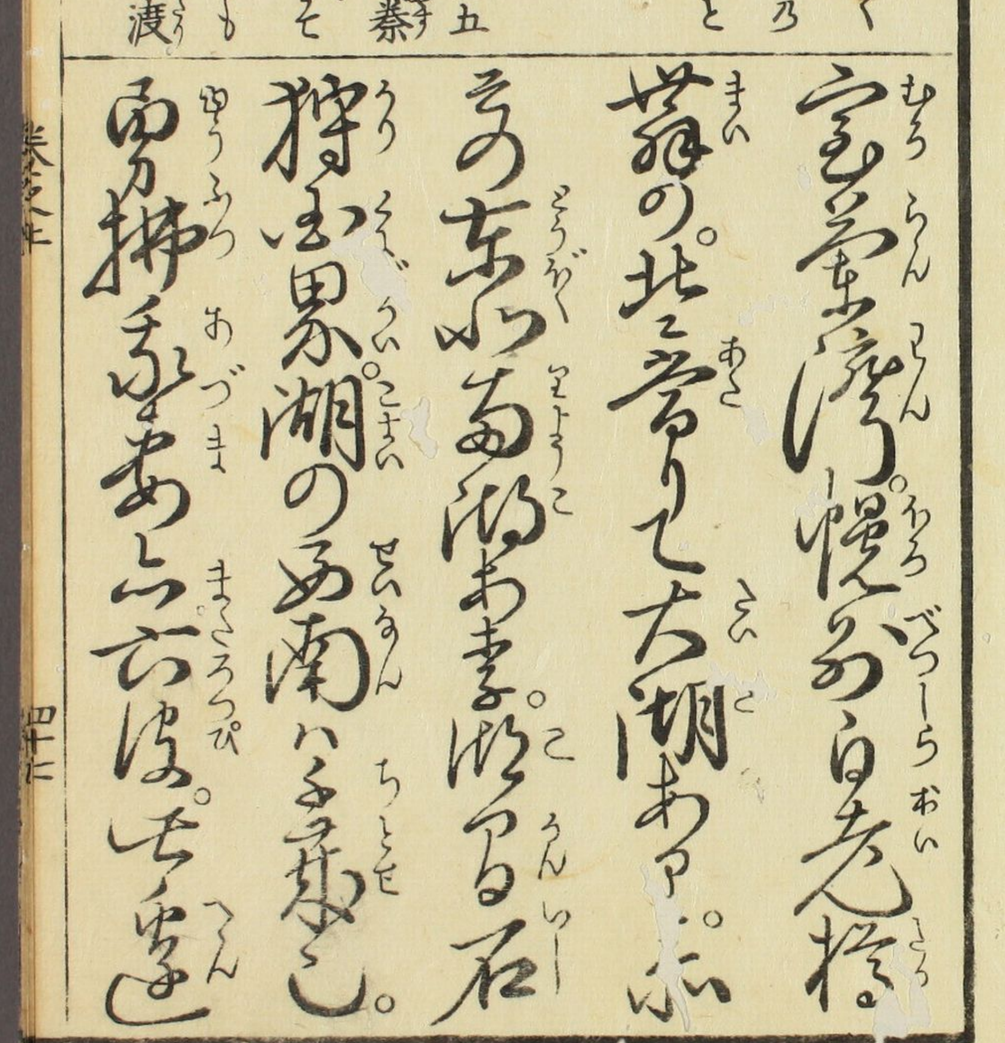
第六勝地と云。南海志石狩の景面

北と夷地と定めら
れてるゝ事とつゝ
其より四十余年后
桓武帝の延暦中ゝ
征東将軍坂上田村
麿大ゝ東征して終
ゝ多賀城より小道
八百四十里今道百
四十里北の方南部
大間津輕の外ゝ濱



まで服後ゝ
海より南を日本乃
地と北と夷地と
定めらるゝ

因云
後鳥羽帝文治五
年源義經奥州秦
衡のゝゝゝ衣川にて
打死ゝとつゝも
密ゝ此蝦夷に渡



蝦夷中昔人物の畫

日高国浦川郡の海岸に
水深数尋にして石狩郡に
第七日高国浦川郡
狩太郡の界小漁山婦岩
夕張郡石狩郡界に

同民をもつぐ長
となりて後に此
地に来す其子
孫残るとなり
是風説にその
正しき文詳ら
ならず
又其后六百七十余年
を経て
後花園帝　嘉吉

陸奥国の嶽河の三利
北海道に登り海岸に沙
流郡厚別新冠郡内
や三石浦川郡似平幌泉
の神社に詣る国浦川

三年武田太郎源信廣海を渡りて蝦夷国へ乱入し終ふ地を得る支小道四百二十里今道七十里これ則ち今の松前なり此松前の北の限りを熊石と云多賀城の趾なり此所熊石まで

大船にて渡海せ
ば今の勝と合界せり
第八十條 南海西を見る
石狩北見物を
以三國と唱嘉を異

小道一千三百二十里今道二百二十里なり是を以て考ふるに天平宝字の頃より蝦夷地を得し支九倍余なり嗚呼武家大権を握りて數百年開拓育民は職務疎にして徒に餓色の武威を示

とし十勝箱館源義經
陸奥を色みて北を
を尾張藩の領分能
相平滿三つの山千歳川相
四地なり八十條蝦夷猥褻なり

北地獵人
山獸を
狩る器

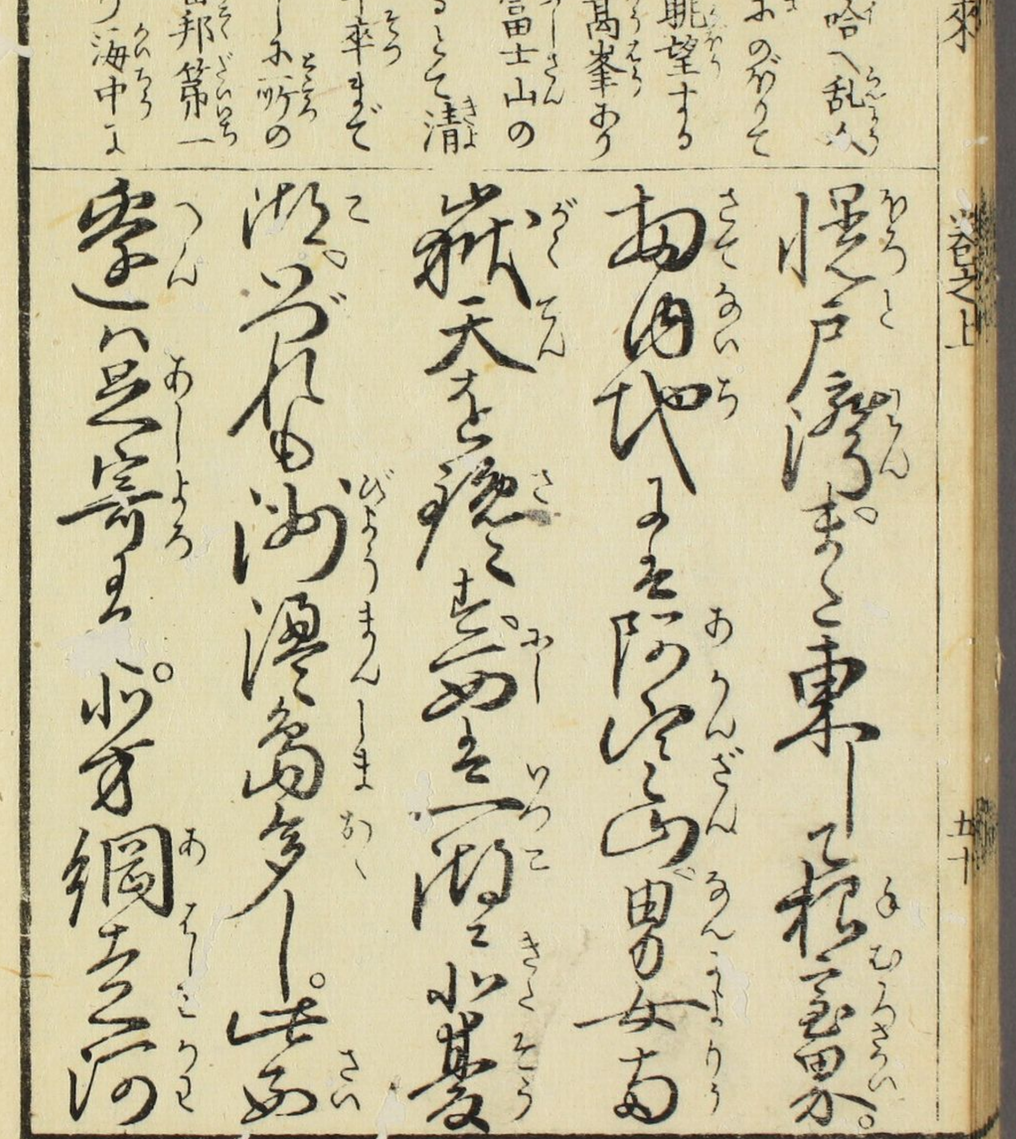
北地獵人。面白多名殺よ梨。
獵人海濱歩行。ゆゑ
別の強弩を
第九を刈剣跡。あいす獵小
北見。東蝦夷地三物と境

すのゝ此旧失蹉
陀するとゝ其詮ゲ
ゝ又仙甚の士林
子平爰ホ任意ゝ
て三国通覽を著
述するホ邦ゝ疑忌
をうけゝ罰ヒゝる
加之他邦人の覬覦を
請るふゝる
加藤清正朝鮮を陷

元理三年

元東南海濱海濱樹
別嚙南星より。日報別復蕾
吟東蝦夷濱星濱多神の
鼻ゝ幅廣ゝ星より程
東南象多ゝ百廣を迴

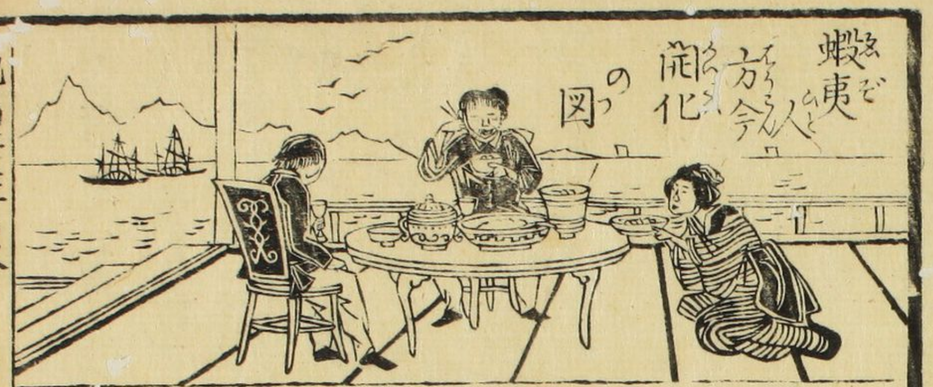
なを凡良哈へ乱入
し高山みのがれて
東の方を眺望する
ふ無雙の高峯あり
是日本の富士山の
よく見るゝなを清
正ちゞめ軍卒まで
不思議さ一ふ所の
者申ハ當邦第一
の名山なり海中よ



〻〻眼前の高
山ふ〻〻海底ふ
入所幾千丈ともし
らずがゝ名山とゝ
ば清正ちゞめ諸軍
驚感すゝ當今
北見国の利尻山と
ゝハ是なり
○今ハ哉
王政御復古萬機

御親裁の聖時より
ならうて此州全国
王化に帰し更ふ
十一州ふたつに割し
たまひ北海道と定め
たもふ
夫蝦夷人の其性
は愚ふして至て善
なり国ふ王と云人
なくして只一村切ふ

南部を新田原より
南中小三郡南部花咲釧
路界迄東西は海岸家
遠く大なるは函館迄
みて相当に落居



出別や後ろ小さな田を付
乃も湾まで北さて標
津月架陸軍を見乃
さつひなるまで平原谷地
みて南北に流れる河り

裏落となりて其国中ふ家筋のぐ〻れ人を望んく其村の長となりて支を計まり男女〻も終日山海ふいぞく諸品を猟〻〻松前ふ出〻〻交易〻〻人命を養ふとなり其国の方言數多

第十一 ふゑの國 ふゑの道

北ふの方ちゆ大国にて夫より西

伊達 此數多あり。根室

乃海 ちゆ西ば。江ふ出る後郡こゝ。

岩山 ふい第く登り夫より西

ひとゝ〻も只其一十までの數の名を左に記す

一 二 三 四

五 六 七 八

九 十

此余なきあり無

四各〻ぬ

東北方長大海を隔て

根室 根室津内弱ふ新

形振 乃藩ふ可墓所実

生田中 沼水多あ書